

# 2022年度の事業計画と予算案

2022年1月19日

日本機械学会関東支部シニア会会長

鳥毛 明

# 2022年度運営委員会構成

2/7

## (シニア会運営委員会で選任)

会 長 鳥毛 明 (新任)  
幹 事 高屋 真二 (新任)  
顧 問 中山 良一  
顧 問 野口 昭治  
委 員 新山 時弘  
委 員 曾佐 豊  
委 員 伊藤 裕道(新任)  
委 員 四阿 佳昭(新任)  
委 員 平澤 茂樹(新任)  
委 員 福地 真理夫(新任)

以上、任期は2年とし再任は1回まで

## (支部運営会で4月以降選任予定)

監 事  
支部シニア会担当幹事  
学生会担当幹事

以上、任期は原則1年とし再任は1回まで

なお、前委員の中村 城治、笠井 憲一両氏には委員外で  
活動にご協力頂く予定

担当職員: 渡邊 賢太(関東支部事務局)

# 2022年度関東支部シニア会の事業計画案

3/7

1. シニア会総会・運営委員会
  - (1) シニア会総会の開催  
当該年度の活動成果ならびに次年度計画について報告し決定、付帯行事として特別講演会・懇親会などを開催する
  - (2) 運営委員会の開催  
シニア会は会務の企画・運営のために3か月に1回を目途に運営委員会を開催する
2. 支部活動に対する支援
  - (1) 関東学生会卒業研究発表会講演会への参加(2022/3/14)  
第61回講演会(Web開催)へコメンテータとして参加し学生との交流を図る  
合わせて参加学生との交流会を予定
  - (2) 学生会との交流会(5月予定)  
学生会との交流会を継続実施する(2021年度の実施を継続予定)
3. 見学会(6月と11月実施予定:コロナ状況に応じて変更の可能性あり)
  - 6月 航空会社の整備工場など(2020年度 案企画案あり)
  - 11月 中小・中堅企業など
4. シニア会メンバーの交流会  
シニア会員が保有する技術・経験などの話題を順次提供(7月, 9月, 11月頃の3回予定)
5. シニア会主催の特別講演会(10月予定)
6. 「エンジニア塾」(新企画)を継続実施する(6月頃開始予定:夏休み工作教室、技術支援など)
7. 2021年度予算 300,000円(残額は支部会計に組み入れ)

# 2022年度関東支部学生卒業研究発表会コメンテータ派遣(1/3) 4/7

## 関東支部からの依頼状

## BPAの説明

2021年12月

日本機械学会関東支部シニア会 御中

2021年12月20

関東学生会担当幹  
荒木稚子, 松井

【依頼】関東学生会第61回学生会卒業研究発表講演会へのコメンテータ

および学生優秀発表賞(Best Presentation Award (BPA))審査員の派遣について

拝啓

シニア会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年度の卒研講演会におきましては、コメンテータとしてご協力いただきまして、誠にありがとうございました。今年度の卒研講演会の実施予定は下記の通りとなっております引き続きご協力賜りたく、宜しく願い申し上げます。

期日： 3月14日(月)9:00~15:00

会場： Web開催

講演室数： 12室

講演数： 232件

セッション数： 各室午前2セッション、午後2セッション、総計50セッション

なお、コメンテータおよび学生優秀発表賞(Best Presentation Award (BPA))審査をお引き受けいただける方には、予めご承知おきいただきたい事項があり、別紙にまとましたのでご一読いただけますと幸いです。

敬

日本機械学会関東支部シニア会会員 卒研講演会コメンテータ及び学生優秀発表賞(Best Presentation Award (BPA))審査員の方々へのお問い合わせ

学生たちが初めて取り組んだ卒業研究の成果発表について、長年のご経験から様々なアドバイス、優秀発表の審査がいただけるものと期待しております。卒業後、企業に就技術者としてスタートする者、大学院にてさらに研究を進展させようとする者、様々が、どうか暖かくご指導いただければと存じます。さて、皆様には卒研講演会について記のようにお知りおきいただきたい事項がございますので、ご一読の程お願い申し上げます。

- (1) 司会、タイムキーパとも学生が行っております。発表10分、質疑応答5分としており、発表者を含め、時間厳守するよう指導しております。
- (2) 時間の関係もあり、すべての発表に対してコメントしていただく必要はございません。
- (3) 全発表がBPA(ベストプレゼンテーション賞)の審査対象となっており、各講に機械学会正員の審査員を配置しております。コメントに併せて、学生優秀発表賞(Best Presentation Award (BPA))の審査もお願いいたします。詳細は紙「学生優秀発表賞(Best Presentation Award (BPA))の覚書」/「学生優秀発表賞(BPA)採点表」をご参照下さい。今回はWeb開催のため、ご採点のご記入はWebによるものを準備しております詳細が決まりましたらご連絡させていただきます。
- (4) 学生による質問も奨励しております。
- (5) コメンテータの皆様には、
  - ・学生を勇気づけるようなコメント
  - ・発表した卒業研究課題が社会的、産業的に持つ意義に気付かせるようなご指摘
  - ・その課題の今後の発展として、技術的にどのようなことを期待したいか
  - ・社会に出たあとで技術者として研究開発をするうえでどのようなことに注意を払ってほしいかなどを通して、会場の議論を盛り上げることに協力いただきたく思います。
- (6) 学生は「新入社員以前」のスキルしか持っておりませんので、コメントに際してはその点もご配慮の上、文言はお手柔らかに願います。直接的な否定的コメントは避けてください。例えば
  - ・示されているデータのサンプル数が少なかつたり、条件が限定的であるように思える場合

- ×「もっと～なデータがなければダメだ。」
- 「もっと～のようなデータも見てみたい。今後の実験で考えてみてください。」
- 「～のような条件だとどのような結果が得られそうだと思いますか。」
- ・ご自身の経験等から、発表で述べられた考察や結論に疑義がある場合
  - ×「その結果には納得できない。おかしいのではないか。」
  - 「今回の実験結果について、～のような見方もできるように感じますが、どう思いますか。」
- ・提案手法や実験方法に疑問がある場合
  - ×「そのようなやり方はダメだと思う。」
  - 「～のような手法も考えられるが、どう思いますか。」
  - 「～のような手法も考えられるが、検討はしましたか。」
- ・図版や口頭での説明に不明瞭な部分がある場合
  - ×「～の部分がわからない。説明が不十分で発表としてはよくない。」
  - 「～の部分をもう一度説明してください。」
- ・研究内容の今後の発展性や、産業への応用に疑義がある(見込みが薄いと感じられる)場合
  - ×「このようなことをしても(産業的には)意味がないと思う。」
  - 「今後のこの研究の展開や発展性、応用についてどう考えていますか。」
  - 「産業的には～のような点ももっと考えたらよいように思うので、今後検討してください。」

以上

## BPAの説明(採点はWeb入力)

### 一般社団法人日本機械学会 関東支部 関東学生会 学生優秀発表賞(Best Presentation Award(BPA))の覚書

1. 総則
    - 1.1 関東学生会に学生優秀発表賞(以下BPAという)を設ける。
    - 1.2 BPAは将来の機械工学分野を担う学生の卒業研究発表を奨励するとともに関東学生会の更なる活性化を目的とし、学生会員の優秀発表者に贈賞する。
    - 1.3 BPAは、毎年3月本会が主催する卒業研究発表講演会において、優秀な講演を行った学生会員の登壇者に贈賞する。
    - 1.4 BPAの贈賞数の上限は特に設けないが、卒業研究発表講演会の2セッションを通して2に定める審査により選出された受賞者に、総研会席上等または送付にて関東支部長あるいは学生会担当幹事に贈賞する。
    - 1.5 受賞者については、日本機械学会誌あるいはその他関東支部の発行するメディアに名前を掲載し、長く栄誉を記録するものとする。
  2. 受賞者の選出
    - 2.1 受賞者の選出を行うために、BPA審査委員会(以下、審査委員会という)を設置する。
    - 2.2 審査委員会は、原則として学生会担当幹事2名とする。
    - 2.3 受賞者の選出は、審査委員会にて選出の審査員(合計3名)による。採点表は、審査委員会において審議の上、当該卒業研究発表講演会において配付する。
    - 2.4 研究発表の審査項目は以下の通りとし、その評価点は審査委員会が決定する。
      - (1) 口頭発表の優秀性
        - ・ 明確さ
        - ・ 論理性
        - ・ 理解のし易さ
        - ・ 質疑応答の回答的確さ
        - ・ 時間配分
      - (2) 発表メディアの優秀性
        - ・ 図表の正確さ
        - ・ 図表の美しさ
        - ・ 理解のし易さ
    - 2.5 採点表はセッションごとに集計し、各会場の計時係は審査委員会に報告する。
  3. 受賞者の決定及び発表
    - 3.1 審査委員会は合議の上、受賞者を決定する。
    - 3.2 受賞者の発表は、当該卒業研究発表講演会総研会等または終了後通知にて行い、日本機械学会誌あるいはその他関東支部の発行するメディアに名前を掲載し、長く栄誉を記録するものとする。
    - 3.3 総研会等にて受賞者の発表を行う場合には、受賞決定者上記総研会等への参加を促すため、決定と同時に受賞決定者一覧を講演会場付近に掲示することに努め、当該者へも速やかに連絡するものとする。
  4. 表彰
    - 4.1 表彰は発表と同時に終了後通知にて行い、受賞者には賞状と副賞を授与するものとする。
    - 4.2 受賞者不在の場合は、後日賞状ならびに副賞を送付するものとする。
  5. 覚書の改訂
    - 5.1 本覚書の改訂等は、関東学生会担当幹事間の議を経て、支部運営会において審議・決定する。
- 附則(第40回学生員卒業研究発表講演会(2000.3.16開催)より実施)
1. 2004年12月15日一部変更
  2. 2018年7月4日一部変更
  3. 2020年10月13日一部変更

【審査員用】

第61回学生員卒業研究発表講演会  
学生優秀発表賞(BPA)採点表

講演第 室 講演番号

最高得点者が選出した場合の順位記入欄

項目	得点				
	良い ←			→	悪い
(発表時)					
声の大きさ	5	4	3	2	1
流暢に話しているか	5	4	3	2	1
スライド等をうまく使って発表しているか	5	4	3	2	1
発表態度(視線、立ち位置、落ち着き等)	5	4	3	2	1
意図が伝わっているか	5	4	3	2	1
(全体)					
本質的な理解が感じられるか	5	4	3	2	1
内容が一貫しているか	5	4	3	2	1
時間配分	5	4	3	2	1
全体の印象	5	4	3	2	1
(質疑応答時)					
質問に的確に答えているか	5	4	3(*)	2	1
* 質疑の無い講演については3点を付けて下さい					
小計					
総計					

注1 採点の無い項目は点数が0になります。必ず点数を付けて下さい。

注2 小計、総計は計算していただきたくお願いします。

注3 最高得点者が複数いた場合には、その順位を右上の欄にご記入下さい。

注4 採点の入力はWebによる。

- 5点: 大変に優る(是非受賞者として推薦したい)
- 4点: 大変に優る(受賞者として推薦してもよい)
- 3点: どちらとも言えない(中庸である)
- 2点: 若干劣る面がある(改善すべき点が見られる)
- 1点: 劣る面がある(改善すべき点が多々見られる)

# 「卒研発表会のスケジュール案」

**Web講演 発表件数232件 12室平行開催 コメンテータ2名 (AM, PM)=最大12室×4名 (48名)**

第61回学生員卒業研究発表講演会 3月14日 (月)  
(発表232件)

	第1室	第2室	第3室	第4室	第5室	第6室	第7室	第8室	第9室	第10室	第11室	第12室
9:00 [1]	1 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	4.機械材料・材料加工	4.機械材料・材料加工	21.マイクロ・ナノ工学	5.流体工学	10.機械力学・計測制御	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	7.エンジンシステム	12.設計工学・システム	11.機素潤滑設計
~10:15	2 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	3.材料力学	4.機械材料・材料加工	21.マイクロ・ナノ工学	21.マイクロ・ナノ工学	10.機械力学・計測制御	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	8.動力エネルギーシステム	12.設計工学・システム	11.機素潤滑設計
	3 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	4.機械材料・材料加工	4.機械材料・材料加工	21.マイクロ・ナノ工学	21.マイクロ・ナノ工学	10.機械力学・計測制御	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	8.動力エネルギーシステム	12.設計工学・システム	11.機素潤滑設計
	4 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	4.機械材料・材料加工	4.機械材料・材料加工	21.マイクロ・ナノ工学	21.マイクロ・ナノ工学	10.機械力学・計測制御	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	9.環境工学	12.設計工学・システム	11.機素潤滑設計
	5 2.バイオエンジニアリング	22.スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス	4.機械材料・材料加工	4.機械材料・材料加工	21.マイクロ・ナノ工学	5.流体工学	10.機械力学・計測制御	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	6.熱工学	12.設計工学・システム	11.機素潤滑設計
10:30 [2]	1 2.バイオエンジニアリング	22.スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス	3.材料力学	4.機械材料・材料加工	21.マイクロ・ナノ工学	5.流体工学	10.機械力学・計測制御	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	9.環境工学	13.生産加工・工作機械	11.機素潤滑設計
~11:45	2 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	4.機械材料・材料加工	4.機械材料・材料加工	21.マイクロ・ナノ工学	5.流体工学	10.機械力学・計測制御	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	20.技術と社会	13.生産加工・工作機械	11.機素潤滑設計
	3 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	4.機械材料・材料加工	3.材料力学	21.マイクロ・ナノ工学	5.流体工学	10.機械力学・計測制御	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	1.計算力学	12.設計工学・システム	11.機素潤滑設計
	4 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	4.機械材料・材料加工	3.材料力学	21.マイクロ・ナノ工学	5.流体工学	10.機械力学・計測制御	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	1.計算力学	13.生産加工・工作機械	11.機素潤滑設計
	5 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	3.材料力学	4.機械材料・材料加工	21.マイクロ・ナノ工学	5.流体工学	10.機械力学・計測制御	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	1.計算力学	14.生産システム	11.機素潤滑設計
12:15 [3]	1 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	4.機械材料・材料加工	3.材料力学	5.流体工学	5.流体工学	10.機械力学・計測制御	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	17.産業・化学機械	19.宇宙工学	11.機素潤滑設計
~13:30	2 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	4.機械材料・材料加工	4.機械材料・材料加工	5.流体工学	5.流体工学	15.ロボティクス・メカトロニクス	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	16.情報・知能・精密機器	19.宇宙工学	11.機素潤滑設計
	3 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	3.材料力学	4.機械材料・材料加工	5.流体工学	5.流体工学	10.機械力学・計測制御	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	16.情報・知能・精密機器	19.宇宙工学	11.機素潤滑設計
	4 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	4.機械材料・材料加工	4.機械材料・材料加工	5.流体工学	5.流体工学	15.ロボティクス・メカトロニクス	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	16.情報・知能・精密機器	19.宇宙工学	11.機素潤滑設計
	5 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	3.材料力学	4.機械材料・材料加工	5.流体工学	5.流体工学	15.ロボティクス・メカトロニクス	15.ロボティクス・メカトロニクス	6.熱工学	0	19.宇宙工学	0
13:45 [4]	1 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	3.材料力学	4.機械材料・材料加工	5.流体工学	5.流体工学	15.ロボティクス・メカトロニクス	15.ロボティクス・メカトロニクス	7.エンジンシステム	16.情報・知能・精密機器	19.宇宙工学	0
~15:00	2 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	3.材料力学	4.機械材料・材料加工	5.流体工学	5.流体工学	15.ロボティクス・メカトロニクス	15.ロボティクス・メカトロニクス	7.エンジンシステム	18.交通・物流	19.宇宙工学	0
	3 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	4.機械材料・材料加工	4.機械材料・材料加工	5.流体工学	5.流体工学	15.ロボティクス・メカトロニクス	15.ロボティクス・メカトロニクス	7.エンジンシステム	18.交通・物流	19.宇宙工学	0
	4 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	4.機械材料・材料加工	3.材料力学	1.計算力学	5.流体工学	15.ロボティクス・メカトロニクス	15.ロボティクス・メカトロニクス	7.エンジンシステム	18.交通・物流	19.宇宙工学	0
	5 2.バイオエンジニアリング	2.バイオエンジニアリング	4.機械材料・材料加工	4.機械材料・材料加工	0	5.流体工学	15.ロボティクス・メカトロニクス	15.ロボティクス・メカトロニクス	7.エンジンシステム	0	19.宇宙工学	0

**シニア会員の皆様へ別途依頼予定(全員へメール送信:Webにて公開)**

# シニア会2022年度予算案報告

7/7

収入		
費用	予算額	摘要
支部からの補助金	300,000	
合計	300,000	
支出		
費用	予算額	摘要
旅費交通費	35,000	会議関係
総会会場費	0	Web開催
総会懇親会費および参加費	0	Web開催
特別講演会費	140,000	会場費、講師謝礼
特別講演会懇親会参加費	-60,000	3,000×20名
見学会費(2回予定)	10,000	
交流会費(3回予定)	200,000	Web会議も含む
交流会費懇親会参加費(2回予定)	-120,000	3,000×40名
子供向けイベント「エンジニア塾」	60,000	見学会、会場費など
雑費	15,000	永年会員案内
予備費	20,000	
合計	300,000	